

週刊てんのうじ④

2022.9.3

施設長 徳畑等

9月に入ると運動会という行事に向けた取り組みが始まります。

運動会は、子どもたちにとって、当日、自分の家族やたくさんのお客さんに観てもらえる、その経験には一定の価値があると考えています。

以前にも書きましたが、日本は「同調圧力」が強い国です。我が子を見守る際、ついつい「ウチの子だけみんなと違うことしていたらどうしよう、、、」という意識が芽生えませんか？

でも、ごくごく当たり前のことですが、そもそも人はみんな違います。性格も考え方も体格も特徴も持ち味も、全てにおいて一人ひとり個性があります。

運動会では、クラスごとにみんな同じ競技や演技に取り組み、当日の本番があります。練習でもそうですが、うまくいく（調子の良い）子も、緊張したり、戸惑ったり、ぐずったり、泣いたり、固まってしまったりする子もいます。

みんなで（または2人組やグループで）同じテーマ（競技や演技）を（できるだけ子どもたちの力で）やり切ることを目指しますが、その時々で現れる子どもの姿というのは「十人十色」です。「みんなと一緒に（同じように）できた＝○」「一人だけできなかった（しなかった）＝×」「早かった・勝った＝○」「時間がかかった・負けた＝×」というように、「○」か「×」かのどちらかではなく、みんなで同じテーマのもと練習を経験したこと（参加の仕方はそれぞれでも良い）、本番はどんな姿であったにせよ、たくさんのお客さんに観てもらおう点において、みんな一様に良い経験をしていると捉えています。

以下、【種の会コンセプトブック】より抜粋

『できるできないは色合いが違うだけです。結果の姿ではなくて、結果に現れることを経験することに意味があります。友達関係の中では、リーダーになる子もいるし、ついていくだけの子もいるでしょう。自己発揮できたりできなかったり、「主役になりたかったな」という子があると思います。保育園時代にどんな姿を残したかというよりも、どれだけ多種多様な経験をしたかということに重点をおきたいと考えています。』

このように、子どもをどんな見方で、どんなふうに見取るのか、「我が子」や「子どもたち」を見る大人の眼差しというものを、新しい時代や新しい社会に合わせた「新しい見方（価値観）」に変えていく必要があると思います。

まずは、職員集団として共通理解を持つこと、それが日々の保育の中で実践（実現）されていること、さらにはその実践や考え方を園から世の中に発信していくこと、そして保護者の皆様にも私たちの考えや価値観を共有していただくこと、それが子どもたちの素晴らしい世界につながると願っています。